

【2】研究の経過と本年度の取り組みについて

(1) 平成4年度（1年次）の取り組み

前研究テーマの「からだづくり」を通した取り組みのなかで、高等部の生徒には「ことば」や「表現する力」に落ち込みがみられ、改善が難しいという考察を得た。そこで1年次には、生徒の実態を諸検査や観察により把握・分析し、「ことば」や「表現する力」に落ち込みがみられるという確かな傾向をつかみ、その原因を究明することを研究の中心においた。

(2) 平成5年度（2年次）の取り組み

2年次である昨年度は、1年次の経過をふまえて次のような取り組みを行った。

① 研究の構想図の立案

めざすコミュニケーション像を「相手を意識してすすんで自己表現する子」とし、仮説や実践場面の検討と吟味を重ね、研究の構想図を立案した。

② 高等部でねらうコミュニケーションの力の検討

社会参加を意識し、高等部の3年間で培い高めておかねばならない力として、6つの力を取り上げ、コミュニケーション課題一覧表づくりや、生徒一人ひとりの目標設定を行った。

③ 授業づくりの基本的な考え方の検討と授業づくりの積み重ね

生活一般と課題学習を連携させた月別指導計画の作成に着手し、特に課題学習のグループ編成や題材の設定を中心に、授業づくりをすすめた。

④ コミュニケーション指導内容表への着手

実態に応じた指導内容の必要性を感じ、焦点化した指導を実施したいと考え、指導内容表の作成に着手したが、評価表としての色彩が強くなり、成案を得ることはできなかった。

(3) 本年度（3年次）の取り組み

最終年次である本年度は、2年次までにすすめてきた研究の構想や基本的な考え方を継承し、授業づくりの充実を中心にして、研究の集約と評価を行った。具体的には次の通りである。

- ① 自己客観視や「自分づくり」できる力の高まりをねらった授業づくりの充実。
- ② 社会参加を意識した学習内容と、コミュニケーションを切り口とした指導の兼合い。
- ③ 学習内容を実際の社会や家庭生活の場に般化させる工夫。
- ④ コミュニケーション指導内容表の検討と効果的な運用。
- ⑤ 一人ひとりの指導目標を授業の展開のなかに盛り込む工夫。
- ⑥ 定期的な授業研究会の実施による、指導者の関わり方や指導法の検討。
- ⑦ 生徒一人ひとりのコミュニケーションの力の評価。
- ⑧ 本研究テーマへの取り組みの評価と課題点の模索。

本年度は、特に生活一般での取り組みを重視し、それへの連携としての課題学習のあり方を追求した。単元や題材の設定は、生徒の実態に応じて新しい試みを取り入れたものもあったが、ほぼ昨年度の単元や題材を継続・発展させたかたちで実施した。